

世界の食料需給の中長期的な見通しに関する研究 (プロジェクト研究)

1. 研究目的

バイオ燃料向け農産物の需要拡大、干ばつなど異常気象の頻発などにより、近年世界の食料需給は不安定さを増している。また、将来的には、ブラジル、ロシア、インド、中国といった新興経済国の経済成長の影響も大きくなっていくものと考えられる。

このような世界の食料需給をめぐる状況の変化に対して、食料輸入大国である我が国が的確に対応し、国民への食料の安定供給を引き続き確保していくため、「食料安全保障課」を設置し、体制の充実が図られたところ。

このような状況を踏まえ、食料をめぐる動向や世界の食料需給の見通しについて、途上国も含め、できる限り客観的な情報を収集し、必要な分析を行った上で、その結果を世界の食料事情の変化に対応した新たな食料戦略の検討に供するとともに、分かりやすく国民に対しても提供。

2. 研究内容

(1) 「世界食料需給モデル」の改良とそれを活用した見通しの実施

食料の輸入大国である我が国の立場を踏まえ、世界の食料需給の中長期的な見通しを行うため、20年度に開発した「世界食料需給モデル」について、21年度においては、バイオエタノールの需給部分を内生化する等の改良を行い、これに基づいて世界の食料需給の中長期的な見通しを実施。

(2) 研究ネットワークを活用した各国情報の収集・分析

20年度に引き続き、世界各国の食料消費、農業生産、人口動態、経済成長、農地、水資源、品種改良等の食料需給の分析に必要な情報・研究論文等を、各国の大学・研究機関との国際的な研究ネットワーク等を活用して収集し、行政サイドが有する情報と合わせて世界の食料需給の中長期的な見通しの実施に必要な分析を実施。

21年度においては、世界の食料需給を見通すに当たって、各国情報として重要と思われる食料の供給構造、消費構造とその中長期的な変化の見通しに焦点を当てる。

(3) バイオ燃料原料用農産物の需要拡大が食料需給に及ぼす影響分析

20年度に引き続き、世界の食料需給を見通す上で、無視することができない要因となっているバイオ燃料原料用の農産物の需要拡大が食料需給に及ぼす影響について定量的な分析を行い、その成果を(2)の中長期見通しに組入れ。

21年度においては、バイオエタノール用農産物に関する定量的な分析に加え、バイオディーゼル用農産物に関する定量的な分析も実施する。

3. 研究成果の活用方法

世界の食料事情の変化に対応した新たな食料戦略の検討に活用。

次期基本計画の検討に活用。

「海外食料需給レポート」等の行政側が公表する資料等に掲載し、国民各層に幅広く情報を提供。